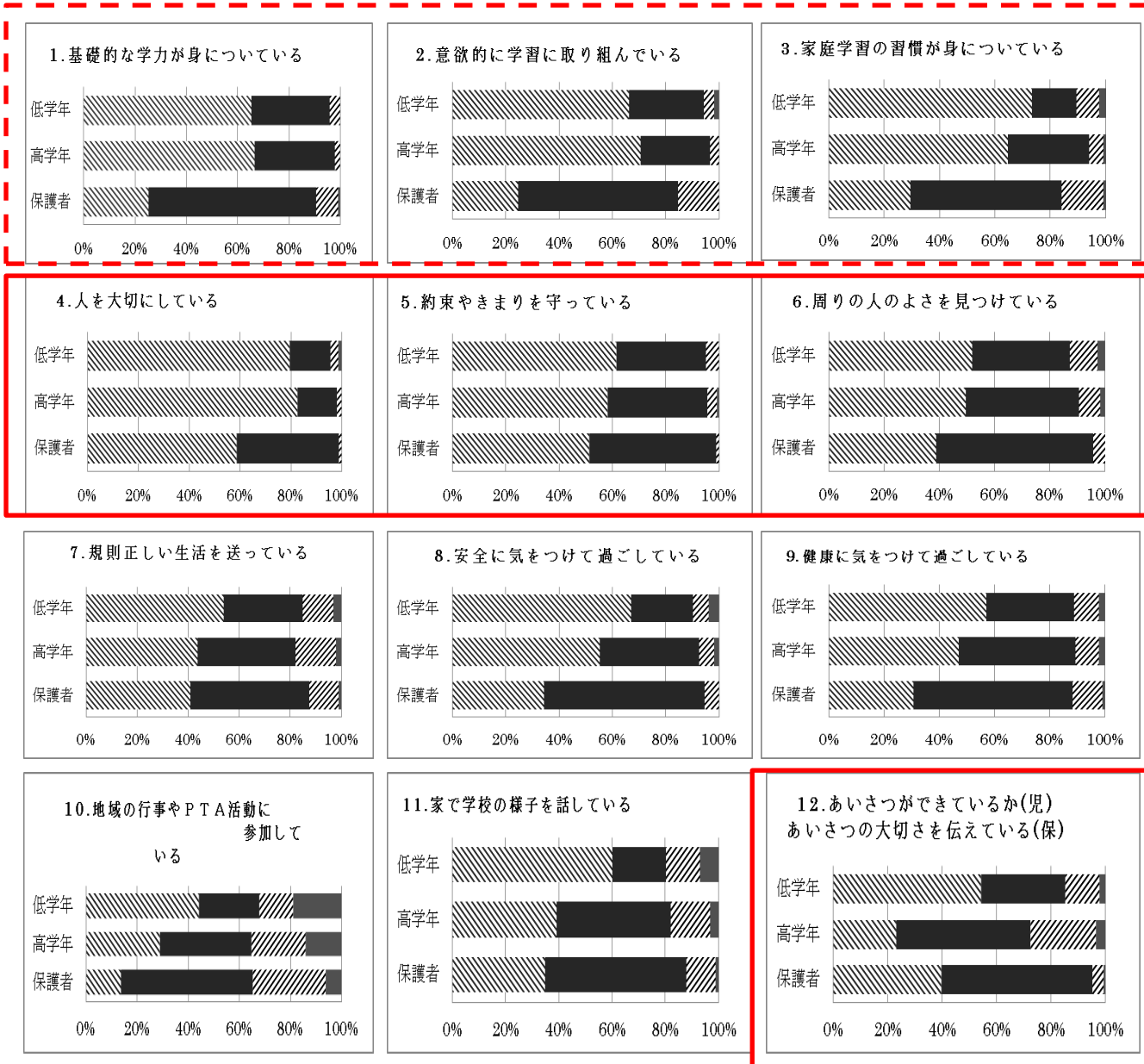


桂坂だより 特別号

学校生活について（ふりかえり）アンケート結果【前期】

★児童・保護者アンケートより

よくできている 大体できている あまりできていない できていない



令和2年10月21日
京都市立桂坂小学校
校長 上田 昭宏
TEL 333-1101
FAX 333-1102

お忙しい中、学校づくりアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



【児童・保護者アンケート結果から】

子どもたちや保護者の皆様からのアンケートの結果・日々の子どもの様子を合わせて、全教職員で分析を進めています。



①

① 基礎的な学力・学習への意欲

学習に関わる1・2・3の項目については、児童・保護者ともに80%以上の肯定的な回答がありました。新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校がありましたが、児童は意欲的に学習に向かっていると実感していました。しかし、基礎的な学力に不安を感じたり、学習への意欲をもちにくかったりする子どもたちもいます。家庭学習の習慣については、他の2項目に比べて、できていないと感じている児童・保護者の回答があるなど、授業、家庭学習共に、お家の方の協力を得ながら、どのように手立てを打てるのかを検討しました。

②

今後の取組として▶

- 子ども主体の学習形態の構築
- スキル・もっとタイムを活用しての基礎基本の定着
- 家庭との連携

② 人間関係力の育成

設問項目4・5・6・は、人とよりよい関係を築く力（人間関係力）に関わる項目です。肯定的な回答が多く、人との豊かな関わりをプラスにとらえている様子がわかります。一方で、項目12の結果や保護者からの自由記述欄から、自分から進んであいさつすることには課題があります。「おはよう」「ありがとう」などの言葉は、お互いの存在を承認しあう大切なものです。本校では、あいさつを人との豊かなかかわりの基盤となるものととらえています。引き続き、学校でも家庭でもあいさつの大切さを伝えるとともに、改善に向けたいろいろな取組を重ねていくことが大切だと考えています。

②

改善へのポイント▶

- 教職員、児童会中心によるあいさつ運動
- 学年の実態に合わせた指導
- あいさつの大切さを感じる場づくり

今回の結果や自由記述欄の内容を客観的かつ謙虚に受け止め、指導や取組の改善を図り、より一層充実させていきたいと考えています。

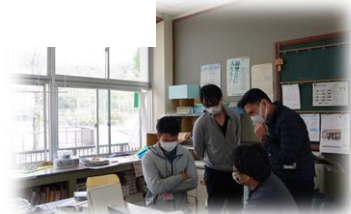
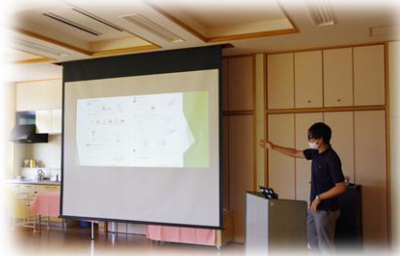
★よりよい学校づくりに向けて

改善のポイントから、すぐにできることを全教職員で考え、動き出しています。



教職員同士の学び合い

外部の専門家を招いたり、普段の取組の交流をしたりして、よりよい学級集団、学習集団づくりを目指し、取組を進めています。



スキルタイムやもっとタイムの活用

毎朝 20 分間の「スキルタイム」や毎週水曜日 7 時間目の「もっとタイム」などを活用して、学習内容の基礎基本の定着を図っています。基礎基本の定着がより主体的な学習につながると考えています。

日文研の方に出席授業に来ていただきました。それぞれの教授の専門内容について分かりやすく教えていただき、興味や知識を広げていきます。



日文研出席授業



ほっとタイム

- ・ソーシャルスキルトレーニング
- ・構成的グループエンカウンター

学級の中で、毎月 1 回取り組んでいます。子どもたちは、自分や友達のよさを実感したり、人の温かさを感じたりして、豊かな心を育てています。



学習への意欲

基礎的な学力

人間関係力

あいさつ運動

声かけ運動や教職員や児童会によるあいさつ運動など、学校ではいろいろな機会をつくって、あいさつができる桂坂の子を目指しています。

★10月1日（木）第2回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より

学校評価「保護者・児童アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

基礎的な学力

臨時休校もあり、7時間授業など校時表が変更になっている。学習時間が長くなり、子どもだけでなく、教職員にとっても負担が増えているのではないだろうか。子どもたちがより意欲的に学習にむかえるように、子どもたちの声にもしっかりと耳を傾け、ゆとりをもって教育活動を進められるようにしていく必要がある。

基礎学力の定着がより主体的に学習に向かうことにつながる。そのため、スキルタイムを活用することも必要だが、朝読書など、子どもたちが本に触れる時間も取り入れていくべきである。

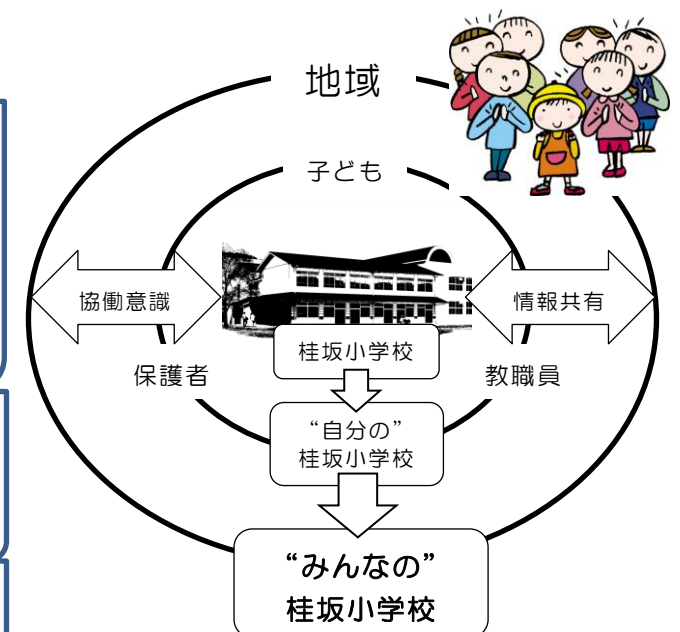
より学びを深めるために校内でのICTの活用や、学びを止めないために校外で活用するなど、新しい学校生活様式の中でできることを具体的に考えていく取り組むことが重要である。

人間関係力

マスクをしていることもあり、表情がわからないことが子どもたちの不安につながっていると感じる。我々大人が子どもたちに寄り添える力をつけるとともに、子どもたちにも大人の行動の善悪を見抜く力をつけてほしい。子どもは家庭、学校、地域の中でたくさんの大人と関わっている。子どもたちが判断力、思考力を養うことができるように、大人がしっかりと道徳心をもって行動する姿を見せられるようにしていきたい。

今年度は多くの行事がなくなり、子どもたちへの安全面の指導ができていない。自転車の乗り方など、安全に気を付けて生活できるように、地域全体で見えるようにしていきたい。そうして、子どもたちと関わることが、人と人との豊かなつながりになっていく。

学校のホームページを見ると、子どもたちの様子や学習の内容がよくわかる。今後も、積極的にホームページで学校の様子を伝えてほしい。



今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して、今後も教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。保護者や地域の皆様にもご理解とご協力をいただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。